インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No. 218

2023 年 1 月 23 日

発行所　兵庫教育文化研究所
〒650-0004
神戸市中央区中山手通 4-10-8

地域を学ぶ・地域で学ぶ・地域と学ぶ防災教育　防災教育部会

10 月、神戸市立舞子小学校で「みんなで守ろうふるさと舞子」と題して、4 年生の総合学習で防災教育をおこないました。感染症の影響により、以前に比べて地域の方々に参加していただく行事が減ったことで、地域との結びつきが薄れてしまっています。海と傾斜の大きい丘に挟まれ、山田川も通っている校区なので、地域の防災について学ぶことはとても重要です。そこで地域との関係の再構築と、地域の防災について知ることを目的として、フィールドワークをおこなうことにしました。

まず導入として、地域の防災に関心をもたせるため、実際に地域で議論され、数年前に設置された「舞子浜防潮堤」の是非について討論をおこないました。討論をする中で見えてきた「防災の必要性」と「景観などの地域の魅力の保持の難しさ」の課題をもとに、第二次では、校区内を自分たちで調べることにしました。しかし、知らないことがたくさんあると感じ、地域の方に学ぶ必要性に気づかされました。

そこで本時では、ふれあいのまちづくり協議会や青少年育成協議会などの地域の方、保護者、そして防災教育部会の協力のもと、フィールドワークをおこないました。フィールドワークでは子どもたちを数人の班に分け、各班に支援者がつくことで、コミュニケーションを密にとりながら調べ学習をおこないました。支援者からは災害に対する危険性だけでなく、地域でおこなわれている防災のとりくみを教えていただきました。また、地域の歴史や、別視点からの見方など“地域の魅力”についても教えてもらうことができました。逆に子どもたちからは、支援者にむけて「あの公園は、めっちゃ虫が取れる公園やねんで」、「ここからの景色は電車と海が一緒に見えて最高やねんで」など、自らの視点で見た地域の魅力を発信する場面も見られました。フィールドワーク後に再集合した時には、支援者と子どもたちが談笑する場面が見られたり、保護者から「私も知らないことを地域の方から教えてもらいました」という感想があったりと、地域・子ども・保護者が防災のフィールドワークを通してつながったことが実感できました。

本時終了後、各自が調べた情報を拡大地図にまとめました。地図は、防災のとりくみなどの機械的な情報だけでなく、地域の魅力もまとめられ「防災・お宝マップ」として、親しみやすいものに仕上がりました。また、子どもの視点や教わった内容が違うことにより、クラスごとに地図にも個性があり、主体的な学びの形をうかがうことができました。完成した地図は、校内掲示板のほか、地域の福祉センターに掲示していただくことになり、自分たちの学習の成果を地域にも返すことができました。

反省として、魅力・防災・危険個所など調べる内容を一度に詰め込んでしまったため、目的意識がぶれてしまうことがありました。防災だけにとらわれない柔軟な授業づくりの手法をさらに高めるべく、防災教育部会は、これからも研究を深めていきたいと思います。

※本実践は、『2022 年度 学校発兵庫の教育改革』リーフレットにも掲載しています。